

ラジオポトフ

2023「アニメ」

2023年6月19日

川柳連作

アニメ

ひまつぶし

手

小さいミニカー

税理士鳥原の眼「税金鳥」

アニメ小説「たまご」

インタビュー

時盗むあんたみたいな柱から

積もるのはキモチ載せない感嘆詞

えべす顔ドクターも成すテレビ前

時間切れ。こちらおかわりおわかりか

『めぞん一刻』

四つ谷から六本木へととどく嘘

『めぞん一刻』

もういないひと込み込みの氷上を

『めぞん一刻』

かなしみがあなたのせいでこんにちは

アニメ
高澤聡美

見てほしいアニメーションと踊る僕

アニメまで騙されていく雨模様

『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』

愛してるは分からないのです私にも

『ポケットモンスター』

格差ゆえショックを逃れたこどもたち

『千と千尋の神隠し』

好きな男が河川だったね

『それいけ！アンパンマン』

上がる息震える手ジャムのタイミング

『夢みる機械』

いつかどこかで夢みる機械

アニメ
鳥原弓里江

『江戸前エルフ』

奥行きを数百年で捨てていく

『カワイイスキクライシス』

夜空から人語が降ってこないなら

『逃走中 グレートミッション』

逃げまどい追いまどうなら笑いまどう

『スキップとローファー』

北陸に官僚志望人はいる

『ワールドダイスター』

目が光るときは静かにしています

『推しの子』

目が光るのを全員で見えています

『私の百合はお仕事ですー』

目が光るひまもないほど忙しい

アニメ
今田健太郎

有料プランがボレロとやってくる

くつしたみたい ほうりだされて

いちばん焼けたがつてる肉さがしに

別珍の奥に不真面目の産物

大丈夫わたしも小麦まみれだよ

影見ててすこしのりもの顔見せる

贅肉がピザ生地になりますように

ひまつぶし
高澤聡美

ドラえもののひみつ道具に「税金鳥」がある。おこづかいが足りず漫画が買えないのび太が、漫画をたくさん買っているスネ夫を見かけ、それを「不公平だ」とドラえもんに訴えたところ、ドラえもんが「公平に近づける方法がないでもない」と出してきた道具が税金鳥だ。税金鳥は、のび太たちそれぞれが持っているおこづかいの金額に応じた税率で税金を徴収する。つまり、税金を払える能力（担税力）で税率が決まる。

ここには、実際の税法と同じ考え方がある。税法の基本原則のひとつ「租税公平主義」である。これは、税負担は担税力に応じて公平に配分されなければならないというものだ。そこで、担税力とはなにかが重要になってくる。

たとえば、スネ夫は漫画がたくさん買えるくらいおこづかいをもらっているので、担税力がありそうだ。一方、のび太はお金がなくて欲しい漫画も買えていないため、担税力がなさそうに見える。だが、のび太といつも一緒にいるドラえもんは未来のネコ型ロボットである。のび太がドラえもんの所有者として、このネコ型ロボットを売却したら破格の値段がつくだろう。破格の値段がつくロボットを所有しているのび太に担税力がないと言いきれるのか。

参考文献 金子宏『租税法「第24版」』（弘文堂・2021年）

税理士鳥原の眼「税金鳥」
鳥原弓里江

「小さいミニカー」 今田健太郎 ◆ミニカーにミートソースを絡めてる／春にしてミニカーとして君離れ／目を閉じてミニカーだけで会議中／折り畳み式ミニカーを折り畳む／院生はミニカーだから構わない／四時半のミニカー 夢の塵／ミニカーか、あるいはサンドウィッチマン

玄関をモンマルトルにする工夫

点滅は私をみてる やってみる

軒先で梅雨を楽しむ紛失者

距離とればだれが博士かわかんない

手
高澤聡美

空手家のバケツになりたかった鉢

録音機 リップクリーム目で追う 手

後遺症残す彼等の唾と鯛

親友は亡くなる直前まで絵を描いていた。
病室の窓から見える風景の一角に、そこには存在しないはずの大きくて真っ白なたまごがひとつ。そんな絵を親友は何枚も何枚も描いた。

最後の一枚は、わたしの部屋に飾られている。

寝る前と、起きてすぐと。一日に最低二回はその絵を見て、親友のことを考える。やがて気づいたのは、日に日にたまごが大きくなっていることだった。これは「存在感が増している」という意味の比喻表現ではない。実際にサイズが大きくなっていったのだ。

うれしかった。

気づいて三日後から撮りはじめた写真は、気づけば五百枚を超えていた。それらをパソコンに取り込んで、パラパラマンガの要領で連続再生すると、病院の中庭の固定された風景の中で、真っ白なたまごがにゅーっと大きくなっていく。それをひとつのファイルとして動画形式で出力したものをループ再生するのが最近の休日の過ごし方だが、いつかたまごにひびが入って割れて、中から赤ちゃん姿の親友が出てくる。

アニメ小説「たまご」
今田健太郎

インタビュー

構成：鮫河原ジュン

● ネットプリント第2弾、発行おめでとうございます

今田…ありがとうございます（たばこの煙をインタビューに吹きかける）

高澤…ありがとうございます（たばこの煙を今田に吹きかける）

鳥原…ありがとうございます（たばこを手品で消す）

● えっ、たばこが！

鳥原…タネも仕掛けありませんよ

● それは、現代川柳にも通じることですか？

鳥原…そうですね。現代川柳は小手先ではありませんから。あれ？ わたしのたばこがない！

● 第1弾のテーマは「茄子」で、今回のテーマは「アニメ」でした。取り組んでみて、なにか変化はありましたか？

鳥原…わたしは、受け手（読者）のことを意識するようになりました。極端に言えば、「茄子」というお題だったら、句の中に茄子を入れてしまえばそれで済む。でも「アニメ」は単語の示す意味がいろいろあります。特定の作品かもしれないし、アニメーションという概念かもしれない。句を読む人が「アニメ」という言葉をどう受けとるか、なにかと考えましたね（たばこを手品で出す）

● えっ、たばこが！ さて、高澤さんは現在（2023年6月）ドイツに滞在しているそうですね。このネットプリントの掲載句もドイツに向かう道中でまとめられたと伺いました

高澤…ええ、途中のランジットが9時間あって

● つまり、どことなく浮ついたムードがあるのは、旅行の浮かれ気分によるもの、ということでしょうか

今田…訂正してください。高澤さんが浮ついているのはふだんからです。とんだまぬけ野郎ですよ

● 1枚目の川柳連作「アニメ」には、句の横に着想元となった作品名も挙げられています。このチョイスに個人の特徴がよく出ています

鳥原…わたしは、自分が好きな作品と、誰もが知っているであろう作品と、どちらも取りあげました

高澤…わたしはいまはアニメをほとんど観ないんですが、『めぞん一刻』は昔から好きで

今田…ぼくは連作の7句とも2023年の春アニメ（4月放送開始の作品）を取りあげました

● まさに三者三様のアプローチ。2枚目はさらに三者三様で、高澤さんと、アニメではない独自のテーマで川柳連作を書かれています。今回は、以前より575の音律を意識したと伺いました

高澤…正直、これまで音律のことはほとんど意識していません。まあだいたい十七音くらいになっていればいいだろう、と思っていました。自分なりの感覚を重視してたというか。でも、あるときそれを今田さんに指摘されて（ラジオポトフ第266回）、なるほどそういう見方もあるんだ、と。今回は、じゃあいったん575を意識して作ってみたらどうなるんだろう、と思って取り組んでみました

● 試しに575に寄せてみた、と。実際どうでしたか。575を意識したこととどんな変化が？

高澤…全体がシャープになったのは当然なんです。文字数が限られることで「自分がどうしても使いたいフレーズ」についても、改めて整理して考えられるようになりました

● 言いたいことをすべて言うのではなく、あえて言わないことで生まれる視点

今田…言いたいことをぜんぶ言ってもぜんぶ伝わるわけじゃないと思うんですよね。それどころか、言いたことが10個あるとして、10個すべて言うことで情報量が増えて、むしろ1個も伝わらなくなる可能性だってある。だったら初めから1個2個だけ言うくらいがいいよね、的な考え方もあるんじゃないかな、と

● そんな今田さんは、2枚目では、アニメ小説「たまご」という怪文書を書かれています。これはいったいなんですか？

今田…こっちのセリフですよ。なんですかこれは

● 鳥原さんは税理士の視点からのコラムを書かれています

鳥原…まあ、税法に関する軽めの読み物ですね。最近の仕事で税法に関する専門的な話題の文章も書くこともあるんですけど、いろいろ挑戦してみたいと思っています。文章のお仕事、募集中です

今田…それならぼくだって募集中です

高澤…わたしも募集中です

● 今田さんも高澤さんも、文章のお仕事を募集中、と

高澤…わたしは俳優なので、俳優の仕事がいいですね。ナレーションとかもやってみたいです

今田…ぼくは、お金を直で募集中です

● きょうはお忙しい中、競馬場の真ん中のスペースでのインタビューにご協力いただき、ありがとうございました
3人…ありがとうございます（ファンファーレが鳴り響く）